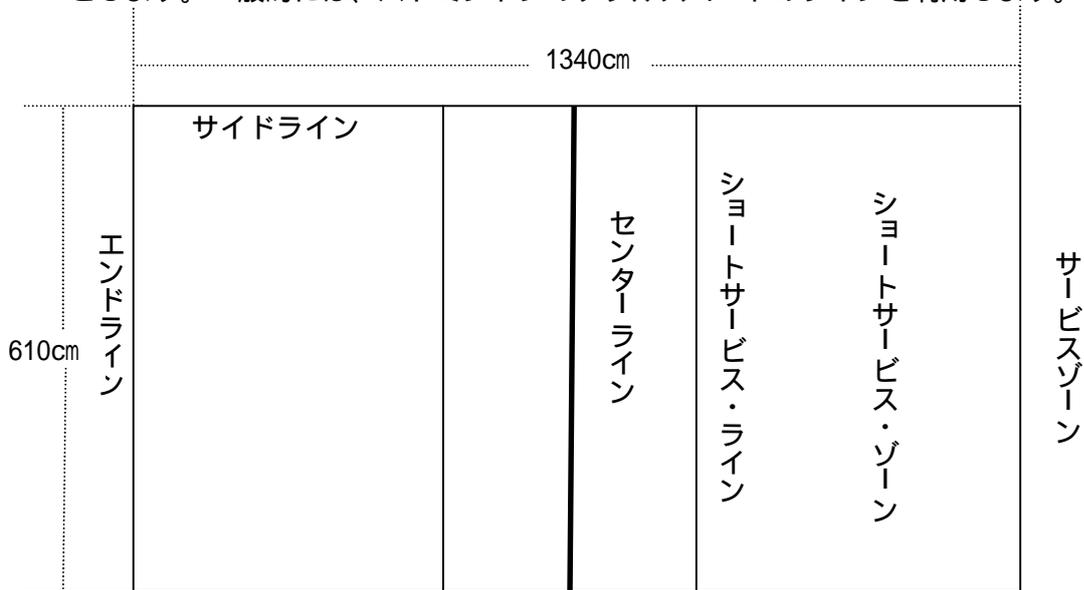


ソフトバレーボール

1. コート

体育館、グラウンドなどで行います。コートの広さは、区画線を含んで長さ 1340cm、幅 610cm とします。一般的には、バドミントンのダブルスコートのラインを利用します。



2. 用具

ボール = ゴム製の専用ボールで、重さ 210g、円周は 78cm です。

ボール = バドミントン用ボールに「補助ボール」をつけ、高さは 200cm にします。

ネット = バドミントンネットを使用します。

アンテナ = ボールの外側に、ネットから 100cm 上方に出るように取り付けます。

3. 人数

試合は 4 人対 4 人で行います。

4. 勝敗の決め方

1 セット 15 点のラリーポイント制で、3 セットマッチ行い、2 セット先取したチームが勝ちとなります。14 対 14 のときはジュースとし、2 点差がつくまで行います。ただし、17 点を先取したチームを勝ちとします。

5. ゲームの進め方

ジャンケン等でコートかサービス権を決めます。

サービスは自陣コートのエンドラインの後方のサービスゾーン内から、後衛に位置したプレーヤーが足をラインに触れず、また自陣コートに踏み込まずに打ちます。サービスは 1 回とします。

サービスは相手チームにサービス権が移行するまで、同じプレーヤーが続けて打ちます。

サービスが打たれる瞬間には、各チームの競技者はサーバーを除いて定められた各ポジションに位置しなければいけません。

サービスが打たれた後はどのように移動してもよく、ポジションによるプレーの制限はありません。

サービス権を得たとき、プレーヤーは、時計回りにローテーションをしてポジションを代わ

ります。



各チームは、ボールを自陣コート内の床面に落とさないようにし、ネット越しでお互いに打ち合います。床面に落ちたら相手の得点になります。

6. ルール(反則)

以下のプレーがあったときは反則となり、相手チームに1点が与えられます。

オーバータイムス

相手コートに打ち返すために、ボールへの接触回数がブロックに加えて最大限3回をこえたとき。ただし、ブロック直後の1回目のボールへの接触は、ブロックのときにボールに触れた競技者を含み誰にでも許されます。

ホールディング

ボール接触中、あきらかにボールが止まるようなプレーがあったとき。

オーバーネット

ネットによって分けられた相手側のコート上のボールに触れたとき。

タッチネット

プレー中にネットに触れたとき。ただし、相手側の打球によってネットがふくらんでネットに触れたときは、タッチネットになりません。

ドリブル

あきらかな同一競技者が、2度続けてボールに触れたとき。ただし、チームの1回目の接触が、指を用いたオーバーハンドによるプレーでない限り、体の2ヶ所以上に連続して当たっても構いません。その接触は1つの動作中のものに限りません。

フットフォールト

サービスの打球時に、エンドラインに足が触れたり、味方コートに入ったりしたとき。

バッシング・ザ・センターライン

センターラインを完全に踏み越したとき。

インターフェア

ネット下から相手のプレーを妨害したとき。

サービスフォールト

サービスがネットに触れるか、相手チームの競技者に触れずに相手のコートの外に落ちたとき。

その他については、6人制バレーボールのルールに準じます。